

## 学長挨拶

お茶の水女子大学長  
郷 通子



お茶の水女子大学は、流動化する社会の動向を視野に入れつつ、大学の新たな展開を目指してさまざまな取り組みを行っています。それは、社会のリーダーとなりうる優れた女性人材の育成であり、また、新たな領域、とくに女性が活躍する新たな領域の開拓でもあります。

本学の大学院は1971年に人間文化研究科として創設され、以来、学際性・国際性・先進性を重んじる教育を特徴としてまいりました。そして、平成17年度の「魅力ある大学院教育イニシアティブ」には、理農工系プログラムと並んで、人社系プログラム「〈対話と深化〉の次世代女性リーダーの育成」が採択されました。

人社系のこのプログラムでは、現代社会が直面している諸課題に対処するために、日本研究を中心として、他分野・他領域との「対話」を行いながら専門性を「深化」させ、日本を対外関係のなかで相対的に把握することができるような国際的視野を持った女性人材の育成を目指しています。このプログラムはとくに本学大学院博士後期課程の国際日本学専攻を中心に、比較社会文化学専攻とジェンダー学際専攻とが連携して実施しています。

ここに纏めました報告書は、平成17年に実施された学生海外調査研究と海外提携大学院との共同ゼミの成果です。

学生海外調査研究は、学生が自ら作成した調査計画に基づいて海外において調査研究を行うもので、博士論文作成を直接的実質的に支援する企画です。また、海外の大学院との共同ゼミは、本学と韓国の同徳女子大学大学院、淑明女子大学大学院との間で行われました。どちらも本学の学生が引率教員とともに韓国へ赴き、同徳女子大学大学院においては日本語教育を中心としたプログラムが、また、淑明女子大学大学院においては日本文化と国際関係についてのプログラムが行われました。これらのプログラムを通して、韓国と日本、それぞれの大学院から複数の学生が参加し、異なる発想や視点と出会うことによって、大いに学問的刺激を得ることができ、さらに、参加した学生間のネットワークも形成されつつあります。

このようにして国際的な教育の機会が複数与えられましたことは、学生にはとくに有意義であったに違いなく、今後、外国における日本研究との比較、および日本と外国との比較研究によって、人文学の分野に新しい局面が開かれることが期待されます。そして今回の経験を糧として、研究面においても、教育面においてもリーダーとして活躍しうる多くの女性が本学から育っていくことを期待しています。

お茶の水女子大学の大学院教育へのこうした意欲と今後の活動にご支援を賜りますようお願い申し上げます。